

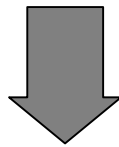
日本工業規格「標準貫入試験 JIS A 1219 : 2001」

「土の標準貫入試験 JIS A 1219 : 1995」は、2001年6月12日に「標準貫入試験 JIS A 1219 : 2001」に改正されました。今回は改正のポイントをまとめました。

従来の規格の問題点

「土の標準貫入試験」は、その汎用性から対象地盤および適用分野などの利用範囲は多様化を極め、従来から、以下の課題が指摘されていた。

試験結果の客観的記録方法の統一の困難さ
軟弱地盤、硬質地盤における試験結果の評価方法
試験結果の品質確保
予備打ちに対する取扱い方法
使用機材の仕様の曖昧さ
規格どおりの記録の困難さ
自動化装置への対応



定義

N値: 質量 63.5 ± 0.5 kg のドライブハンマーを 76 ± 1 cm 自由落下させて、ボーリングロッド先端に取り付けた標準貫入試験用サンプラーを地盤に 30cm 打ち込むのに要する打撃回数

最大の改正点は

落下高さが 75 cm 76 ± 1 cm となりました。

落下高さは、ももとの定義である30インチの換算値76.2cmと諸外国の定義値を考慮して、 76 ± 1 cmと決定したようです。

【注意： ± 1 cm は許容差、1インチは2.54cm】

試験機具の名称

モンケン (63.5kg の錘) は「ハンマー」から「ドライブハンマー」

「ロット」は「ボーリングロッド」に名称が変更になりました。

「標準貫入試験用サンプラー」(現場呼称：レイモンドサンプラー)の各部品の名称は、先端を「シュー」、二つ割にできる「スプリットバーレル」および「コネクターヘッド」という名称になった。

細かな寸法や材質も規定された。

記録の方法

改正前の基準は、打撃1回毎の貫入量を記録することになっている。

改正では、記録を「自動記録装置」と「野帳に手記する」方法に区分して、

「自動記録装置」は打撃1回毎の貫入量を記録し、「野帳に手記する」場合は、10cm 毎の打撃回数を記録する方法も許容している。

実施してなかった